

平成30年度 患者のための薬局ビジョン推進事業

## 宮城県におけるがん患者支援のための 薬薬連携プログラム事業について

宮城県保健福祉部薬務課

1

### この事業を展開するにあたって

宮城県

- 人口 2,312,937人 (推定人口)
- 薬局数 1,148 (H30.3.31)

地方独立行政法人  
宮城県立病院機構  
宮城県立がんセンター



(©宮城県・旭プロダクション)



2

## 事業目的と背景

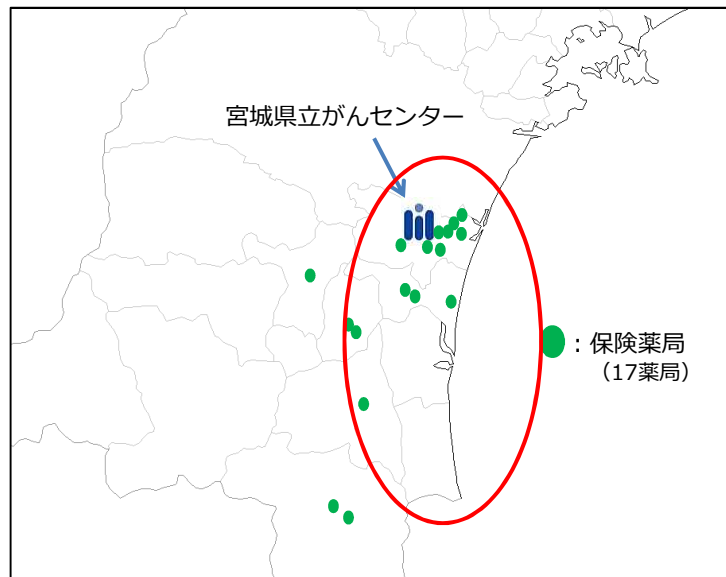
- ・ 医薬分業の普及により，外来がん化学療法における抗がん薬や支持療法薬について，薬局で服薬指導を行う事例が増加している。  
⇒服薬期間中の副作用モニタリング・身体状態の変化の把握など治療医療機関と薬局の連携については，まだ十分とはいえない。



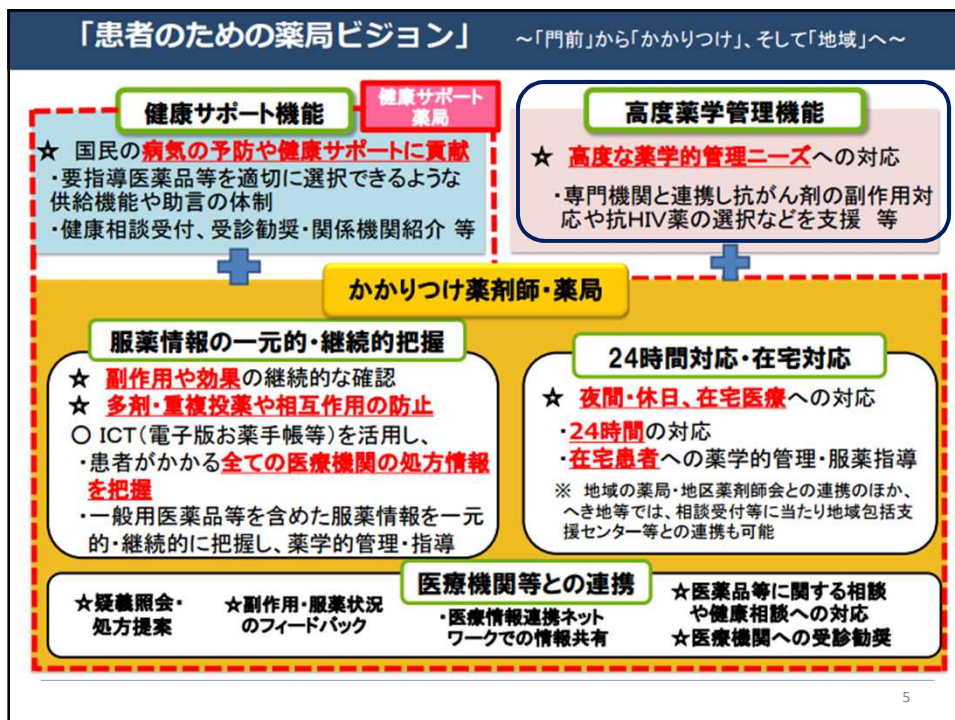
- ・ PBPMを外来がん化学療法に適用する。
- ・ 「薬剤師が担う医療機関と薬局間の連携手法の検討とアウトカムの評価研究（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス研究事業）」において確立されたプロトコルを宮城県立がんセンターを中心とした地域で水平展開し，プロトコルの検証及び課題の抽出を行う。

3

## 本モデル事業のエリアイメージと参加施設



4



**宮城県でこの事業を展開するねらい**

<患者等のニーズに応じて充実・強化すべき機能を備える>

がんやHIV、難病のような疾患を有する患者に対して、あらかじめ医療機関との間で対応要領を定め、次の高度な薬学的管理ニーズへの対応を行う。

- ・ 抗がん剤服用時などに、発熱等の副作用が生じた際に、担当医への受診などの対応について助言

↓

本県でプロトコルを確立し、展開することで多くの薬局が高度な薬学的管理ニーズへの対応を行うことが出来るようになる。

高度薬学管理機能を備え、対応出来る薬局を増やそう。

6

平成30年度 患者のための薬局ビジョン事業

宮城県におけるがん患者支援のための  
薬薬連携プログラム事業について

一般社団法人 宮城県薬剤師会  
常任理事 轡 基治

7

地域のがん患者支援に必要なこと

医療者（薬剤師）のスキルアップ

情報と患者支援ツールの共有

PBPM

8

## 本モデル事業のスケジュール

- 2018年 3月 事業実施打合せ開始  
5月 研究倫理審査委員会（宮城県立がんセンター）  
6月 WG参加薬剤師の募集（6薬局程度）  
7月 WG会議 事業実施概要とプロトコルの検討  
8月 セミナー開催 事業説明・参加薬局募集  
9～12月 PBPM実施
- 2019年 1月 アンケート調査・結果取りまとめ開始  
2月 WG開催（結果報告とその考察等）  
3月 学会発表（日本臨床腫瘍薬学会）

9



10

## 本モデル事業の対象薬剤

テガフルル・ギメラシル・オテラシルK配合剤  
(ティーエスワン®・ジェネリック含む)  
単剤療法および注射薬との併用療法

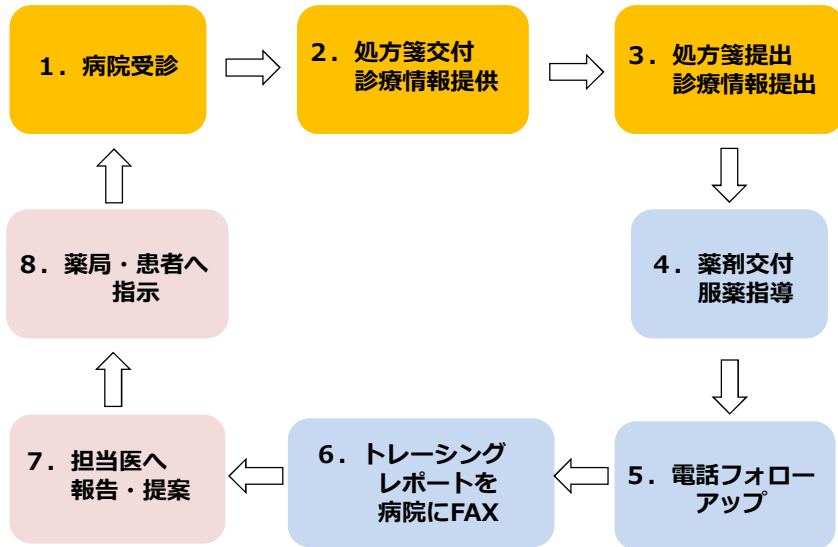
カペシタビン (ゼローダ®)  
単剤療法および注射薬との併用療法

- ※対象レジメンが含まれるがん種  
胃がん、大腸がん、膵臓がん、頭頸部がん
- ※支持療法薬が処方されている  
抗菌薬・制吐薬・止瀉薬・解熱剤・緩下剤等

## 患者用ツール



## 本モデル事業でのPBPMのフロー



13

## トレーシングレポート (ティーエスワン)

宮城県立がんセンター 御中		保険薬局 → 薬剤部 → 主治医 報告日: 年 月 日 ( )
服薬情報提供書 (トレーシングレポート)		《 ティーエスワン 》
担当医 科	御机下	保険薬局 名称・所在地
患者ID: 患者氏名: 生年月日:		TEL: 00-0000-0000 / FAX: 00-0000-0000
下記の通りお薬サポートダイヤルを行いましたのでご報告致します。ご高配賜りますようお願い申し上げます。		
<input type="checkbox"/> 薬局から患者へ連絡 <input type="checkbox"/> 患者から薬局へ連絡(問い合わせ) <input type="checkbox"/> 投薬時		
開き取り日: H 年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分    担当薬剤師名(薬局):		
対応者: <input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 家族		
レジメン:		
服用期間: 月 日 ( ) ~ 月 日 ( ) / 休業期間: 月 日 ( ) ~ 月 日 ( )		
アドヒアランス: <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 不良 (飲み忘れ回数 回 その他: )		
有害事象	未確認	備考・指導内容
下痢	無	頻度: 回/日 ロペラミド内服頻度: 回/日 残数: Cap 支持療法: □下痢止めの服用を指示した □下痢止めの服用について再度説明した ※飲水、食事指導、ロペラミドの服用法についてなど

有害事象の項目: 下痢・悪心・嘔吐・食欲不振・口内炎・  
皮膚障害・全身倦怠感・眼の障害・  
その他の症状

14

# トレーシングレポート (ゼロータ)

保険薬局 → 薬剤部 → 主治医

宮城県立がんセンター 御中 薬業情報提供書(トレーシングレポート) 報告日: 年 月 日 ( )

担当医 科 御机下	保険薬局 名称・所在地
患者ID: 患者氏名: 生年月日:	TEL: 00-0000-0000 / FAX: 00-0000-0000

下記の通りお薬サポートダイヤルを行いましたのでご報告致します。ご高配賜りますようお願い申し上げます。

薬局から患者へ連絡     患者から薬局へ連絡(問い合わせ)     投薬時

聞き取り日: H 年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分 担当薬剤師名(薬局):

対応者:  本人     家族

レジメン:

服用期間: 月 日 ( ) ~ 月 日 ( ) / 休薬期間: 月 日 ( ) ~ 月 日 ( )

アドヒアランス:  良     不良 (飲み忘れ回数 回 その他: )

有害事象	未確認	無	有・グレード	備考・指導内容
HFS (手足症候群)				支持療法: <input type="checkbox"/> 軟膏の塗布を指示した <input type="checkbox"/> 軟膏の適正使用について再度説明した ※手・足の裏をしっかりと確認、HFS対策、セルフケアなど
口内炎				※含嗽薬の使用法、口腔ケア指導など
				頻度: 回/日 ロペラミド内服頻度: 回/日 投与: Cap 支持療法: <input type="checkbox"/> 下痢止めの服用を指示した <input type="checkbox"/> 下痢止めの服用について再度説明した ※飲水、食事指導、ロペラミドの服用法についてなど

有害事象の項目: 手足症候群・口内炎・下痢・悪心・嘔吐・食欲不振・浮腫・全身倦怠感・その他の症状

15

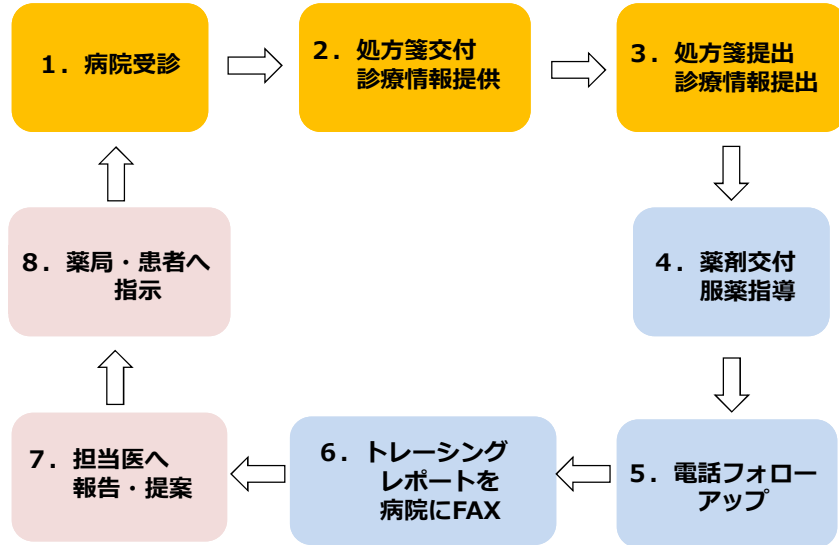
## 副作用グレード (嘔吐) ※CTCAE ver.4.0 により分類

	グレード1	グレード2	グレード3	用語の定義(注釈)
CTCAE	24時間に1-2エピソードの嘔吐 (6分以上間隔があったものをそれぞれ1エピソードとする)	24時間に3-5エピソードの嘔吐 (6分以上間隔があったものをそれぞれ1エピソードとする)	24時間に6エピソード以上の嘔吐 (5分以上間隔があったものをそれぞれ1エピソードとする) IPNまたは入院を要する	胃内容が口から逆流性に排出されること
嘔吐	手持ちの制吐薬の服用を指示	<b>Step1</b> 手持ちの制吐薬の服用を指示  <b>Step2</b> 制吐薬を内服しても嘔吐が止まらない または、 水分摂取ができない、 食事摂取ができない、 尿量低下、意識障害などの症状がある	手持ちの制吐薬の服用を指示	
一般的アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>お粥など消化の良いものを選んで食べるように促す (悪心を伴う場合は、食事形態 (おおいなど) の工夫を促す)</li> <li>積極的な飲水 (水、経口補水液) を促す</li> </ul>			

16



## 本モデル事業でのPBPMのフロー



17

## 電話フォローアップの概況 (n=9)

	レジメン	薬剤	同意	不参加の理由	終了	終了理由
1	S-1単剤	S-1	○	—	○	電話フォロー前に緊急入院
2	S-1単剤	S-1	○	—	○	治療方針変更
3	SP(5週毎)	S-1	×	電話が来るのが面倒	—	—
4	SOX	S-1	×	困ったら電話します	—	—
5	SP(5週毎)	S-1	○	—	○	—
6	S-1単剤	S-1	○	—	○	治療方針変更
7	S-1単剤	S-1	○	—	○	電話連絡トラブル
8	SP(5週毎)	S-1	○	—	○	治療方針変更
9	IRIS+BEV	S-1	×	かかりつけ薬局が対象外	—	—

18

## 症例から

経過) S-1服用開始後に体調不良となり患者自身が病院にTEL  
(電話フォローアップ実施予定日より前だったが、  
投薬時の服薬指導内容から患者自身が判断できた)

再受診し薬剤調整(併用薬含む)を行い、  
申し送りを受けた薬局がその後の体調確認をフォロー  
以後症状再燃なく経過

『薬の事は、もちろんだが、変化の前後での  
副せ用等を教えてもらえるので良かった』  
(患者アンケートより、原文のまま)

19

電話フォローアップの説明時に多かった患者の反応

『 薬局の薬剤師は何をしてくれるの…? 』

20

患者にとっては・・・

“治療効果”は過程のひとつに過ぎない



治療効果を得ることで  
生活に良い影響があるかどうか